

## サッポロビール2013年企業CMについて

～間寛平さんと中村勘九郎さんを起用し、コミュニケーションメッセージ『乾杯をもっとおいしく。』を表現！～

サッポロビール(株)は、新しい企業CMを2013年1月2日(月)より全国で放映します。

本年に引き続き、2013年もサッポロビールは「乾杯をもっとおいしく。」をコミュニケーションメッセージに掲げ、品質にこだわる様々な企業活動を基盤に、お客様にとっての「おいしさ価値」を訴求します。

今回の企業CMは、「おいしい乾杯のために頑張る人」にスポットライトを当てました。その代表として、過酷なアースマラソンを走り切った間寛平さんと、世代を超えて歌舞伎の文化を受け継ぐ六代目中村勘九郎さんにご登場いただきました。CMでは、「おいしい乾杯をしたい人」としてお二人がそれぞれのフィールドで真摯に取り組む姿と、乾杯をもっとおいしくするために全力で取り組むサッポロビールの企業姿勢を重ね合わせ、双方に共通する「おいしい乾杯のために頑張る人」を表現しました。楽曲は昨年に引き続き奥田民生さんの「拳を天につき上げろ」を採用し、日々頑張るすべての人にエールを送る渾身の乾杯ソングに乗せてお届けします。

さらにWEBでは間寛平さんにご登場いただき、「乾杯をもっとおいしくしたい」という当社の取り組みについて年間を通じて紹介する予定です。サッポロビールの「乾杯をもっとおいしくする」活動にぜひご期待ください。

### 記

1. 篇名  
「追い続ける」篇 / 60秒、30秒  
「世代を超えて」篇 / 60秒
2. 放送開始日  
2013年1月2日(月)～
3. CM内容  
2013年の企業広告は、「おいしい乾杯のために頑張る人」にスポットライトを当てました。  
「追い続ける」篇では、過酷なアースマラソンを走り切った間寛平さんを起用し、おいしいビールのために走り続ける間さんの姿勢と、その乾杯をもっとおいしくするために、原料からこだわり、世界で唯一、自らの手で大麦とホップを育種するサッポロビールのものづくりの姿勢を重ね合わせて紹介しています。  
「世代を超えて」篇では、歌舞伎の文化を受け継ぐ六代目中村勘九郎さんの世代に対する想いと、ビールづくりの技術を活かして、ノンアルコールビールやSBL88乳酸菌を始め、様々な世代に向けたビール以外の商品を開発するサッポロビールの取り組みを重ね合わせて紹介しています。  
楽曲は昨年に引き続き奥田民生さんの「拳を天につき上げろ」を採用。日々頑張るすべての人にエールを送る渾身の乾杯ソングです。  
奥田民生さんの「拳を天につき上げろ」はこちらのサイトでご視聴できます。  
([http://www.sonymusic.co.jp/play/?ir31&in\\_IR224-02](http://www.sonymusic.co.jp/play/?ir31&in_IR224-02))
4. エピソード  
「追い続ける」篇の間さんのランニングシーンの撮影は、富士山のふもと、静岡県の朝霧高原で行いました。早朝からの雨空も見事に晴れ、絶好のコンディションの中でスタート。走りもギャグも軽快な間さんに、現場は何度も笑いの渦に包まれました。また、居酒屋のシーンの撮影では実際のお店をお借りしました。長年地元で愛されている名店だけに雰囲気は十分。間さんを囲むエキストラの皆さんも自然と和らぎ、活気に満ちた乾杯のシーンを撮影することが出来ました。皆さんの生の声や素の表情から、「乾杯のために頑張る人々」の力強いエネルギーを感じられます。  
「世代を超えて」篇では、稽古着に身を包み、にこやかに登場した勘九郎さん。しかし、いざカメラが回るとたちまち空気が一変。まさに本番さながらの迫真の演技にスタッフからは思わず拍手が沸き起こりました。さらにインタビューでも歌舞伎役者・勘九郎さんならではの乾杯に込めた夢を語っています。  
1月2日(月)より当社HP「乾杯をもっとおいしくするサイト」でもご視聴できます。  
(<http://www.sapporobeer.jp/kanpai/index.html>)  
(裏面もご覧ください。)

<参考>プロフィール

【間寛平】1949年7月20日、高知県生まれ。「アメマ」「かい~の」など多くのギャグを持ち、国民から最も愛されているお笑い芸人の一人。その一方、歌手・間重美として音楽フェスにも出演。また、2008年12月にマラソンとヨットだけで地球を一周するという前人未到のプロジェクト「アースマラソン」に挑戦。大阪からスタートし、千葉県鴨川市からヨットで太平洋横断ののち、アメリカ大陸、大西洋、ヨーロッパ、アジア大陸を周って、約4万1000kmを走破し、2011年1月にゴールした。

【中村勘九郎】1981年10月31日、東京生まれ。2012年2月に父・中村勘三郎が名乗っていた中村勘九郎を六代目として襲名した歌舞伎役者。少年のころから優れた才能を見せ、『車引』の梅王丸で、荒事を見事に体現し、高い評価を獲得した。また一方では、『走れメルス』や『ろくでなし啄木』など歌舞伎以外の舞台にも積極的に挑戦し、映画やテレビにも進出するなど、ますます意欲的に活動を展開している。



以上